

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Changes in the association between postpartum depression and mother-infant bonding by parity: longitudinal results from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 産後うつと対児愛着の関連と変化: 子どもの健康と環境に関する全国調査より

ユニットセンター(UC)等名: 富山UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Psychiatric Research

年: 2019 月: 卷: 頁:

筆頭著者名: 土田暁子

所属UC名: 富山UC

目的: 子どもを大切に思う気持ち「対児愛着(ボンディング)」の障害は、産後うつ発症と同時に起こる例が多いことが知られている。日本において、産後うつは初産婦が経産婦より多く罹患するため、出産経験が増えることで対児愛着と産後うつとの関連にどのような影響があるか検討した。

方法: 対象は「子供の健康と環境に関する全国調査」に参加し、選択基準に合致した母親76,373名である。そのうち、本調査に2回参加した対象者3,753名を、出産経験について検討するサブグループとした。ボンディングは、赤ちゃんへの気持ち質問票からの5項目、産後うつはエジンバラ産後うつ質問票を用いて評価した。ボンディングと産後うつとの関連は重回帰分析を用いて、出産経験の評価ではPaired-T検定にて検討した。

結果: 重回帰分析の結果、全母親もサブグループのいずれもボンディングと産後うつは中等度の関連を認めた。サブグループでは、ボンディングおよび産後うつそれぞれの総得点は、2回目の出産時で低下していた。ボンディング指標は、「母親感情の欠如」、「育児不安」の2因子構造を示したが、2回目の出産時ではいずれの因子得点も改善していた。産後うつは3因子構造では、「不安」と「抑うつ」の因子得点が改善していた。

考察:(研究の限界を含める) 本結果から、日本人では、出産経験が増えることでボンディングと産後うつとの指標が改善し、とくに育児における「不安」の感情が和らぐことが示唆された。このことから、初産婦にはとくに育児不安を起ささないよう、出産前に育児経験を増やすような体験を提供することで、育児不安を軽減できる可能性がある。2回参加したサブグループは、2回参加可能であった精神的にネガティブな人が参加しなかった選択バイアスがある可能性と、同じ質問票を2回回答したため初回の記憶に影響され2回目によりよい回答をした可能性がある。

結論: ボンディングと産後うつは中等度の関連があることと、2回目以降の出産では、ボンディングと産後うつとの指標がそれぞれ軽減すること、両指標のなかでは「不安」の感情が特に軽減される可能性が示された。